

「感染・療養状況 及び 府民等への要請」に係る専門家のご意見

専門家	意見
朝野座長	<p>【感染・療養状況について】</p> <p>大阪府の1週間の10万人あたりの新規陽性者数は都道府県中10番目以下であり、沖縄、九州、北海道など地方の道県が多くなっている。他の都道府県と同様、大阪府も連休明けに新規陽性者数の増加がみられ、特に20代の増加幅が他の年代より大きかったことから、<u>連休中の移動や会食が増加の要因になったことが推測されるが、現在は再び減少傾向であり、増加の引き金は引かれたが、オミクロン株（BA.2）に代わる新たな変異株が出現増加していないことから、今後も減少傾向が維持されると考える。この状況は1年前の第4波の動きと類似している。</u></p> <p>3回目のワクチン接種が高齢者に進んだことによる影響か、医療提供体制の拡充によるか、4月から死亡者数が減少し、5月には月別集計で現時点で致死率（死亡にはタイムラグがあるため、これから少し上振れするが）0.03%程度となっている。重症化率も低下している。医療体制のひっ迫と高齢者施設のクラスターが抑制されれば、ワクチンの効果も相乗的に働き、重症者、死亡者数も少なくなっている。</p> <p>【府民等への要請について】</p> <p>連休後、20代の増加幅が他の年代より大きかったことから、やはり<u>社会活動が活発な世代に感染が起こりやすいことが推測される。リスクの高くなる状況は、飛沫を直接浴びたり、換気の悪い場所での大声での会話であることが周知されてきているため、個人の適切な感染対策の実施と有症状時の検査の利便性の向上に重点を置いて、ウイズコロナの社会生活を再開することが適切である</u>と考える。また、<u>変異株の出現時には感染力と病原性に注視しながら、流行の兆候があれば、迅速なアラートの発出も重要である。</u>一方で、<u>高齢者などの重症化リスクのある人々を感染から守り、感染しても早期に治療介入し、施設などにおける感染拡大を防止することが今後の目標となると考える。</u>したがって、<u>今回の大阪府の要請の緩和に賛成であるとともに、医療体制の整備と高齢者へのワクチンや治療薬の迅速な提供体制と適切な感染対策の構築が対として必要であり、大阪府のさまざまな支援体制の強化に期待する。</u></p>
掛屋副座長	<p>大阪府下ではゴールデンウィーク後直近1週間の新規患者数が増加し、その後は<u>やや減少しているが、1日2000～3000人単位で新規陽性患者が認められ、高止まりで持続している状態</u>で、今までの波のように急速な減少が見られない。一方、全国には急増している地域も見られる。感染力が高いオミクロン株が若年者を中心に伝播しているが、府民のワクチン接種も進んでおり、重症化抑制に貢献しているものとする。今後も若い世代への3回目ワクチン接種を呼びかけていくことが重要である。現在、病床利用率は落ち着いており、<u>今後はオミクロン株の特性に応じた対応が求められる。重症化する可能性が高い高齢者を対象とする対策に基軸を置き、社会活動全体を取り戻していく時期と考える。</u>一方で、<u>府民の側には重症化する可能性がある高齢者が常にいることも念頭に置き、引き続き感染防止対策を呼びかけていくことは重要である。特にマスクをはずす機会となる飲食の場面においては感染対策の徹底を引き続き要請いただきたい。</u>ゴールドステッカー認証店においても感染対策が十分とはいえない店舗も存在する。感染対策のポイントを理解して、利用できるように府民への啓蒙を行うことがウイズコロナ時代には重要と考える。</p>

<p>忽那委員</p>	<p>今回、ゴールドステッカー認証店舗において、大阪府として会食の4人という人数制限と2時間以内の制限を撤廃するという判断は、現在の流行状況、COVID-19の重症度、ワクチン接種率などからは妥当と考える。</p> <p>引き続き、マスク会食や黙食を心がけ、長時間にならないことについてはご注意いただきたい。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>GW期間の人流の増加により、GW明け直後1週間の新規感染者数は増加したが、その後再び前週同曜日を下回る傾向にある。医療のひっ迫度の最大の指標となる病床使用率の中でも、実際的な数値である病床運用率は、5月17日現在、重症病床は6.1%、軽症中等症病床は25.0%と、全体的に低下傾向を示してきている。現時点において、GWの人流増加による感染の急増はなく、また、第6波での医療ひっ迫の最大の要因となった医療機関や高齢者施設でのクラスター発生数は、4月以降減少し、5月に入ってもその傾向は持続しているようで、<u>とりあえず、現時点では、オミクロン株による感染拡大傾向にはない。</u></p> <p>今後、感染力の強い新たな変異株の出現により、第6波以上の感染者数の増加も想定されるが、<u>全国民の3回ワクチン接種率が約50%に達し、特に65歳以上の3回目ワクチン接種率は85%を超え、6月以降高齢者に対する4回目の接種も開始されること。</u>さらに、<u>検査・外来診療体制の拡充、コロナ病床のさらなる確保、高齢者、要介護者施設に対する感染予防、早期治療対策の徹底、など第7波に向けた医療・療養体制の強化・整備を行うなどの条件下において、現在実施されている飲食店、特に、ゴールドステッカー店舗においては、感染対策が整備されていると考えられるので、1テーブル4人、2時間以内、などの制限要請は、緩和しても良いのではないか。</u></p>
<p>茂松委員</p>	<p>【感染・療養状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1-1記載の通り、大型連休後の直近1週間の新規感染者は増加傾向にあったものの、今週（15日以降）は目立った増加が見られない。1日あたりの平均検査数が連休期間・外で異なるため、厳密に感染状況を判断することは難しいが、<u>ゴールデンウィーク前後の行動（移動）活発化による感染拡大が生じるのか（引き続き）注視する必要がある。</u> ・日本国内において、「BA.4」「BA.5」と呼ばれる変異ウイルスが確認されている。ウイルスの置き換わり（スピード）も注視した上で、引き続き医療提供体制を検討することが重要である。 <p>【府民等への要請について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染者数の多い20～30歳代のワクチン接種率（3回目）が低位で推移している現状を踏まえると、<u>現時点で府民等への要請は延長が望ましく、方向性に賛同する。</u>特に会食時においては、換気が適切になされている店舗を選択の上、回し飲み等の感染リスクの高まる場面が生じないよう、引き続きご留意いただきたい。

<p>白野委員</p>	<p>【感染・療養状況について】</p> <p>ここ 2 か月近く、7 日間毎の新規陽性者数は 2 万人台（大型連休期間を除く）で安定している。大型連休の前から人流は増えているが、<u>現時点では急な感染拡大の兆候はみられない。</u></p> <p>現在もなお、1 日に 3000～4000 人程度の新規陽性者が発生しているが、重症や中等症で入院するケースは低く抑えられている。これは 65 歳以上では 85%以上と、ワクチン 3 回目の接種率が高く、高齢者の重症・中等症患者の発生が抑えられているからと推定される。</p> <p>しかしながら、<u>現時点でもワクチン未接種や 2 回目接種から間隔が空いた方を中心に、重症・中等症患者が継続的に発生している。</u></p> <p>若年層での 3 回目ワクチン接種率が低い（50 歳代で約 60%、40 歳代で約 40%）ことを考えると、2021 年夏の第 5 波のように、<u>若年層の重症・中等症患者が増加することも懸念される。医療供給体制を整えることがさらに重要である。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも 3 回目までは接種するメリットの方が大きいと考えられ、引き続き、未接種者に対するワクチン接種を呼び掛けていく必要がある。 ・陽性者に対する、保健所を介さない健康観察・初期治療体制の確保 ・高齢者施設に対する往診・支援体制の確保 ・非コロナ医療機関も含めた“オール医療”の体制構築 <p><u>など、高齢者施設や医療機関でのクラスターを抑え、ハイリスクの陽性者が早期に医療にアプローチできる体制をさらに強化する必要がある。</u></p> <p>【府民等への要請について】</p> <p>すでに、多くの飲食店では人数制限や時間制限は形式的になってきている。<u>いったん制限を緩和することは問題ないとする。</u></p> <p><u>ただし、人が集まる場ではマスクを着用する、手指衛生を行う、換気を行う、体調不良時は休むなど、最低限の感染対策は緩めることのないよう、呼びかけていただきたい。</u></p> <p>段階的に制限を緩和し、生活を元に戻していく時期にきているが、新たな変異体などにより再び感染性、病原性が高まる可能性もある。</p> <p>その際にすぐに対応できるよう、せつかく根付いた感染対策の文化は維持していくようにしたい。</p>
<p>倭委員</p>	<p>大型連休後の直近 1 週間の新規陽性者数は増加したが、5 月 14 日以降は前週同曜日の新規陽性者数を下回った状態が継続している。しかし、大学・学校関連が増加し、医療機関関連や高齢者施設関連のクラスターの発生割合（施設数）は減少しているとはいえ、依然、施設数、陽性者ベースで高齢者施設関連クラスター発生割合が 4 割前後と高い水準で継続している。一方、クラスター発生の高齢者施設への早期介入、早期治療に取り組んでいただいた結果もあり、医療機関での入院を要する患者数は減少し、病床利用率は、直近は 19%前後で推移している。また、大阪府内の救急搬送困難事案件数は、ピークの 2 月よりは低下したものの、昨年の同時期よりはやや高い水準で下げ止まりの傾向にある。<u>新型コロナウイルス感染症患者及び疑い患者を現在よりさらに多くの医療機関でご対応いただき、新型コロナウイルス感染症患者用の病床確保による一般救急患者の受け入れ病床制限への影響をさらに小さくすることが重要である。さらなる早期発見、外来レベルでの早期治療を進め、入院加療が必要な患者数をさらに減少させ、医療逼迫につながることはないように対策を進める必要がある。</u></p>

大阪府の府民への要請について賛同する。特に、高齢者（基礎疾患のある方などの重症化リスクの高い方を含む）の命と健康を守るため、高齢者（基礎疾患のある方などの重症化リスクの高い方を含む）、及び同居家族等日常的に接する方は、感染リスクが高い場所への外出・移動を控えていただくなどご注意いただきたい。3 密の回避、マスク着用、手洗い、こまめな換気等の感染防止対策の徹底、会食を行う際はゴールドステッカー認証店舗かどうかにご注意いただき、マスク会食の徹底をお願いしたい。ゴールドステッカー認証を受けていない店舗では同一グループ・同一テーブル 4 人以内および 2 時間以内のルールを引き続き遵守していただきたい。感染対策が徹底されていない飲食店等の利用をお控えいただきたい。

少しでも症状が出現した際には早めに検査を受けていただき、ご自身の健康を守るとともに、周囲への感染伝播防止に努めていただきたい。医学的にワクチン接種が可能な方は 3 回目、さらに 4 回目接種の対象の方には、重症化予防、特に今後流行が予想される新たな変異株に対する効果を強めるためにも是非ともワクチン接種をお願いしたい。